

令和7年度事業計画

令和6年度は、6月総会後に新体制がスタートし、新理事長方針「心にとどくパッケージデザイン」をコンセプトに、2年に一度の「日本パッケージデザイン大賞」ならびに「パッケージデザインの学校」をはじめ、学生賞、各種セミナーや勉強会、交流会を実施してきました。またコロナ禍の期間、リアル開催が中断していた「アジアパッケージデザイン会議」が韓国ソウルで開催され、各国・地域のパッケージデザイン団体との交流を深めました。令和7年度は、定着しつつある「日本パッケージデザイン学生賞」を継続するとともに、昭和100年を記念した展覧会や各種セミナー、金沢での全国デザイン会議、出版物の刊行など幅広い事業を展開する予定です。引き続き自律的ガバナンスの充実、透明性向上に努め、事業運営に取り組んでまいります。

I. 公益事業

1. パッケージデザインに関する調査・研究及び情報の収集・発信事業

(1) 調査・研究事業

2025年度は新たにこれからの社会・環境テーマの検討期間と位置づける。ライブラリーサイト「情報の森」を活用した情報発信を継続するとともに、調査活動と研究成果等の価値共有を図るため、上半期、下半期それぞれに研究会を開催する。

(2) 広報事業

(a) 広報誌の制作、発行

JPDAの活動やパッケージデザインの魅力を発信する広報誌「JPDA MAGAZINE」を企画・編集、アニュアルマガジンとして年度末に発行する。年度途中の秋頃にはタブロイド版等のライトな会報誌を発行し、「今知りたい情報」にアプローチし、情報の鮮度を上げていく。

(b) アーカイブ活動

次世代へのデザイン資産の継承を目的に、「日本パッケージデザイン大賞」上位入賞作品の収集保管・研究・記録とともにサイトおよびセミナーの形式での情報発信を継続する。受賞者のインタビュー録画「声のアーカイブ」を会員専用ページへ掲載する。引き続き、日本デザイン団体協議会（略称：D00）デザインミュージアム設立研究委員会に参画し、領域を超えたアーカイブ活動の研究を進める。

(3) インターネット事業

インターネット等のメディアによるJPDAの広報活動、マイワークスの運営、及び情報発信を進める。2023年にスタートしたデジタルマガジン「ぱっけーじん」では、継続的なコンテンツの企画制作、情報発信をさらに強化するとともに、SNS活用やマイワークスなど既存サイトとの連携を充実させる。

2. パッケージデザインに関する表彰についての公募、審査、受賞者の発表、贈賞に関わる事業及び、パッケージデザインに功績のあった人並びに団体の顕彰等

(1) 日本パッケージデザイン大賞

「日本パッケージデザイン大賞2027」の企画・運営を実施。2026年の作品募集、作品審査に向け、さらなる改善を図りつつ、興味喚起・応募促進等のために、SNS等の発信によるコミュニケーション活動を実施し、活性化を進める。

(2) パッケージデザイン功績賞

次年度の贈賞式に向けて、パッケージデザイン功績賞の候補者選考の年とする。パッケージデザインの向上を目指す公益活動の一環として、パッケージデザイン功績賞の位置づけや、贈賞の意義を明確にし、外部有識者の意見も取り入れ、候補者の選考を進める。

(3) 日本パッケージデザイン学生賞

「日本パッケージデザイン学生賞」を実施し、パッケージデザインの魅力と価値を学生と共に発掘・伝播していく機会として、次世代を担う学生に焦点を当て、作品を公募し表彰する。パッケージデザインへの理解を深めるため、学生向けのワークショップや受賞者を対象とした研修も実施する。

3. パッケージデザインに関する展覧会事業

(a) 創作パッケージデザイン展

企画展「昭和100年パッケージ」を2025年12月に東京都内で開催する。西暦2025年を「昭和100年」とし、昭和元年（1926年）から現在までのパッケージデザインのアーカイブと、公募による創作作品の2部構成の展示によって、JPDAの活動やパッケージデザインの魅力を伝える。

(b) 中部パッケージデザイン展（名古屋開催）

2021年度にスタートした「中部パッケージデザイン展」の第3回を2026年度初めに名古屋市内で開催する。2025年度は、その開催準備の年とする。多くの中部のデザイナーと企業がビジネスを広げ、また学生が参加することで発表の場を与えデザイン活動に刺激を与える機会とする。

(c) 日本パッケージデザイン大賞2025巡回展

「日本パッケージデザイン大賞2025巡回展」を、大阪、東京（印刷博物館他との共催「現代日本のパッケージ2025」）、富山（富山デザインフェア）にて開催する。

4. パッケージデザインに関する各種セミナー・育成事業

(1) セミナー事業

(a) 日本パッケージデザイン大賞2025記念セミナー

日本デザイン団体協議会（略称：D00）とも連携し、D00合同イベントなどで「日本パッケージデザイン大賞2025」の受賞作品からパッケージデザインの潮流をとらえるセミナーを開催する。総会記念講演会/交流会、協賛展示会の機会も活用する。

(b) 西日本デザインセミナー

西日本地域において、講師を招いたデザインセミナーをリアル開催する（6月下旬から7月上旬を予定）。セミナー後には、講師を交えた交流会も予定。

(c) 中日本（北陸）富山デザインフェア

富山市主催のデザイン振興イベントにおいて、学生を対象とした「パッケージデザインコンペティション」入賞作品展および「日本パッケージデザイン大賞2025巡回展」、JPDA北陸会員の作品を一同に展示、一般市民や企業に対しデザインの魅力を広く発信し、地域産業の活性化とデザイン文化の普及促進を目指す。

(2) 権利保護事業

(a) サイトでの知財情報発信

JPDA サイトにて知財関連の情報発信（専門家によるコラム「知財くんがゆく」）をおこなう。年度内に4回掲載を予定する。一見難しそうな知的財産権に関する話題を、身近な事例をコラムとして取り上げることで、わかりやすく発信していく。

(b) デザイン保護セミナー

年度内にデザイン保護セミナーと見学ツアーを開催する。「海外のパッケージデザインの知財の事例に関して」: 海外のデザイン事情と知財の注意点について学ぶ機会とする（5月予定）。「特許庁見学ツアー」: 現場に触れて知財を身近に感じる機会とする（年度後半2月ごろを予定）。

(3) 育成事業

隔年で開催している「パッケージデザインの学校」を、次回2026年秋開催に向けて企画立案を進める。

5. パッケージデザインに関する国内・国際交流事業

(1) 全国会議事業

(a) オンライン交流会

全国規模のオンライン交流会「みんなでつながろう！デザインの輪」を開催する。全国会員及び一般参加者に対して、パッケージデザインに関する交流の場を提供する。2025年度は前半期（5-6月ごろ）にオンライン開催を予定。

(b) 全国デザイン会議

能登地震の復興支援の一助とするべく、全国デザイン会議を10月ごろ金沢で開催する。交流会を開催するとともに、オプションスタディとして能登被災地へのバス現地視察を実施、震災から1年半経過した現状を把握する機会とする。

(2) 新年交流事業

(a) 東日本 新年デザイン交歓会

「新年デザイン交歓会」を2026年1月に開催、講演会と交流会の二部構成とする。交流促進やマッチングにつながるきっかけを提供していく。

(b) 西日本 セミナー&デザイン交流会

西日本地域において、2月から3月の時期に、対面でのセミナー及び交流会を開催する。

(3) 国際交流事業

(a) 海外デザイナーとの交流

パッケージデザインの国際化に向け海外との情報交換と人的交流を進めるために、海外デザイナーと対面での講演・ワークショップ・交流会などを実施する。

(b) 国際交流オンラインセミナー

海外で活躍するクリエイターを招き、現地の状況を交えつつリアルタイムのオンラインで行う講演会を、2024年度も継続して実施する。

(c) 海外研修視察ツアーの準備

パッケージデザインの国際化に向け海外との情報交換と人的交流を進めるために、コロナ禍で休止していた海外視察ツアーを再開するための準備を行う。参加者の要望把握や、情報収集を図る。

(d) アジアパッケージデザイン会議 (APD)

30年以上にわたり、アジア各地域のパッケージデザイン団体による情報交換、人材交流を重ねてきたアジアパッケージデザイン会議 (APD) は、次回 2026 年度に上海にて開催される。その準備のため、2025 年秋に上海で開催される APD 代表者会議に出席する。

(4) 東日本大震災復興支援事業

東北プロジェクトによる復興支援活動の後、行政主体の復興支援デザイン活動に令和 4 年度まで協力を継続してきた。今後、他事業との連携を試み、将来に向けた復興支援事業のあり方を検討・具体化していく。

6. パッケージデザインに関する出版事業

(a) 年鑑日本のパッケージデザイン 2025

日本パッケージデザイン大賞 2025 の入賞・入選作品を掲載した「年鑑日本のパッケージデザイン 2025」を、2025 年 5 月発刊する。今回で 21 回目を迎える日本パッケージデザイン大賞と、過去 2 年間の時代を反映したパッケージデザインの潮流を書籍として記録することで、アーカイブとしての機能も果たしていく。

(b) PACKAGE DESIGN INDEX 2026

2026 年 5 月発刊を目指して「PACKAGE DESIGN INDEX 2026 パッケージ and」の企画、募集、編集、制作を行う。大賞入賞・入選作品とは別の側面を持つ、デザイナーおよびクライアント企業によるパッケージに関わる幅広い領域の「今」を紹介する。前身書籍の「MEMBER'S WORK TODAY」から 20 冊目の節目となる 2026 年版では、掲載者・読者双方に魅力的な特集ページの企画制作を行う。

(c) 新企画本

2022 年度より、掲載パッケージの公募・収集、編集・検討を進めてきた新企画本「ステキなパッケージ」は、2024 年度に掲載パッケージの許諾作業を完了した。2025 年 10 月刊行を目指して、引き続き出版、販売に向けた活動を行う。

II. 収益事業

1. アジア学生パッケージデザイン交流プロジェクトの受託事業

平成 27 年 6 月、(独) 国際交流基金とアスパック協会が推進するアジア学生パッケージデザイン交流プロジェクトを受託することで変更認定を受けたが、令和 2 年度になり、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、アスパックの全ての事業が中止となり、令和 3 年 3 月をもって主催者であり事業の委託元である (一社) アスパック協会も解散となったことから、当協会の収益事業も中止としている。今後の収益事業のあり方を検討する。

III. 法人事業

1. 顕彰事業

顕彰規定に基づき、令和 7 年度は JPDA 貢献賞 2026 の贈賞対象者の選考を理事会にておこなう。贈賞対象者が決定した場合、令和 8 年度に贈賞式を開催する。

以上